

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン		校長	溝渕 忠	教員数	学級数 児童生徒数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計	
		四万十市立東中筋中学校		道徳教育推進教師		三石 裕子	12	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
研究テーマ		自ら考え、主体的に判断し行動できる生徒の育成 ～ともに考え議論し合う道徳科を要として～																	
年度当初の学校の状況		到達目標				中間検証(下半期に向けての改善事項)						年度末(到達目標達成状況)							
<b>道徳性に関する現状</b> 本校の生徒は、道徳の授業に対して、真面目に取り組んでいる。年度当初の道徳意識調査では、「道徳の勉強は、好きだ」、「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」のどちらの項目も肯定的意見が90%を越えている。 本校では、平成28年度から、道徳科や道徳教育に関する指定事業のもと、考え議論する道徳の授業について研究してきた。しかし、話し合いや思考を深める発問や生徒の発言を生かした応答などを効果的に提示できないことがある。また、道徳意識調査の「自分には、よいところがあると思う」の肯定的意見は73.0%であり、生徒の自尊感情の伸び悩みも課題である。		<b>道徳意識調査の肯定的回答の割合の向上</b> ①「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」95%以上 ②「自分には、よいところがあると思う」5ポイント以上向上  <b>道徳授業チェックシート(教師用)の平均の向上</b> ①「考える必然性や切実感のある発問、物事を多面的・多角的に考えられる発問をしている」0.2ポイント以上向上 ②「児童生徒の反応を生かし、問い返すなどして思考を深めるようにしている」0.2ポイント以上向上				・課題である「発問」「応答」について、事前に準備したものが授業で生かされた場面もあったが、道徳授業チェックシートでは、「発問」は0.1ポイント上昇、「応答」は変化なしという結果だった。それぞれの充実を図るために、2学期当初の校内研において、道徳の授業づくりの流れを再確認した。また、次の月の各学年の道徳の授業内容を事前に紹介することで、各自が担当する教科・領域、その他の教育活動等との関連を意識するようにしていく。道徳通信では、学校行事と「体験で育まれる心」との関連について発信していく。 ・授業の事前研では、効果的な発問・応答に向けて、指導項目、教材、生徒の実生活の関わりを意識して、指導案の検討を行っていく。 ・自尊感情は7.2ポイント下がったので、教科間連携の取組の中で生徒主体の授業を目指すとともに、キャリア教育や行事を生かして自尊感情を高めていく。						<b>道徳意識調査について</b> ①「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」95%以上 94.6%(年度当初)→97.4%(年度末)で目標達成 ②「自分には、よいところがあると思う」5ポイント以上向上 73.0%(年度当初)→68.4%(年度末)で未達成  <b>道徳授業チェックシートについて</b> ①「考える必然性や切実感のある発問、物事を多面的・多角的に考えられる発問をしている」0.2ポイント以上向上 2.9(年度当初)→2.9(年度末)で未達成 ②「児童生徒の反応を生かし、問い返すなどして思考を深めるようにしている」0.2ポイント以上向上 2.9(年度当初)→3.1(年度末)で達成							
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)																指標達成状況の分析	
取組項目	取組の評価指標	5月～8月				中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)						達成状況		年度末評価				
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	◆道徳教育推進委員会を定期的(月1回程度)に開き、進捗管理を行う。 ◆別業、年間指導計画に基づく取組の検証。(年3回 推進委員会) ◆道徳教育推進教師が毎週、全学級の道徳科の授業を参観する。	①道徳教育推進委員会の開催(月1回程度)と推進教師が全学年の道徳科の授業を参観できる体制づくり。管理職が参観する際は授業力チェックシートを活用。 ②学年部と推進教師による事前研究の時間の確保。 ③道徳教育全体計画(別業)、各学年の道徳科の年間指導計画の作成(5月)と見直し・追記(8月)。(推進教師・学年部) ④各学年の別業を掲示し、重点目標の取組を各自チェックする。 ⑤道徳意識調査の結果分析と改善策の検討(5月)。(推進委員会)				B	①道徳教育推進委員会での進捗管理と推進教師による全学年の授業の参観、指導、評価、研究のまとめ。管理職による授業力チェック及び助言。 ②学年部による事前研、事後研を生かした授業の質の向上。 ③全体計画(別業)、年間指導計画の見直し・追記(12月)と年間の検証(2月)。 ④道徳意識調査及び授業チェックの検証を踏まえた改善策のとりまとめ。						◆道徳教育推進委員会を月1回以上実施することで進捗管理ができた。 ◆年3回の推進委員会での確認をもとに、道徳教育推進教師により年間指導計画への記入(毎時間の授業展開、振り返り)ができた。別業については、本年度の取組をもとに見直しを図った。 ◆推進教師による道徳科の全授業参観と指導により、授業改善が進んだ。		A				
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	◆全校授業研究の実施(年3回) ◆道徳授業チェックシート(教師用)を使用する。(年3回) ◆小学校「授業づくり講座」に参加する。(1セット) ◆1人1回以上外部の会に参加。	①全校授業研究(公開)の実施(5月、6月、7月)。 ②講話による授業及び評価に関する研修(5月、6月、7月)。 ③学年部と推進教師による事前研究、授業参観、事後研究の実施(全時間)。全校研に係る事前研には講師招聘。 ④道徳授業チェックシートの結果分析と改善策の検討(8月)。(推進委員会) ⑤小学校「授業づくり講座」教材研究会(5月)(各学年1名程度)、授業研究会(6月)(全員)への参加。				A	①学年部と推進教師による事前研究、授業参観、事後研究の実施(全時間)。 ②道徳授業チェックシートの結果分析と改善策の検討(12月)。(推進委員会) ③中間発表会(全学年授業公開)の開催と参加者アンケートの実施、分析。						◆全校授業研究(公開)を1学期に3回実施し、授業や評価についての研修ができた。 ◆年3回の道徳授業チェックシートの分析結果から課題を把握し、授業改善につなげることができた。 ◆東中筋小学校の「道徳授業づくり講座」に1セット参加し、授業の実際について具体的に研修できた。 ◆全員が外部の道徳関係の研修会、研究会、発表会に1回以上参加し自校の授業研究の参考にできた。		A				
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	◆毎時間の事後研において、生徒の個人評価を記録する。(学年部) ◆評価の仕方を校内で共有する。(年3回 校内研)	①道徳ノートや教師の評価メモをもとに、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握、確認し、評価を記録。(学年部) ②評価の仕方を校内で共有し(6月)、通知表作成後、文面について共有・改善を図る(8月)。				B	①道徳ノートや教師の評価メモをもとに、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握、確認し、評価を記録。(学年部) ②改善を生かし、通知表を作成する(12月・2月)。 ③指導要録の文面を確認する(2月)。						◆学年部の事後研で、授業中の発言、様子、道徳ノートの記述等をもとに個人評価を記録した。 ◆校内研(年3回)で、評価の仕方や実際の評価文について共有し、通知表や指導要録の評価に生かした。		A				
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	◆全学年公開による道徳参観日を実施する。(年2回) ◆道徳通信、学級通信で道徳教育や道徳授業に関する情報発信を行う。(月1回程度)	①保護者も授業に参加する道徳参観日の実施(6月)。 ②通信に、道徳の授業の様子や「高知の道徳」の内容を紹介し、道徳教育に関する啓発を行う。(推進教師、担任) ③総合的な学習の時間、特別活動等における地域からの評価を、通信等で紹介する。				B	①道徳参観日の実施(中間発表会と兼ねる)。 ②通信に、道徳の授業の様子や「高知の道徳」の内容を紹介し、道徳教育に関する啓発を行う。(推進教師、担任) ③総合的な学習の時間、特別活動等における地域からの評価を、通信等で紹介する。						◆道徳参観日を年2回実施した。1回目は保護者参加型の授業、道徳懇談会を行った。参加率や道徳についての家庭での話題づくりには課題が残る。 ◆毎月の道徳通信や学校だより、学級通信等で、道徳に関する情報発信を行った。		B				